

ＪＡグループ鳥取自己改革推進レポート（１月号）

１．ＪＡ戦略型中核人材育成研修会修了レポート発表会（ＪＡ鳥取県中央会）

ＪＡ鳥取県中央会とＪＡ岡山中央会は、１月１６、１７日の両日、岡山市でＪＡ戦略型中核人材育成研修会修了レポート発表会を開いた。２１人がＪＡの抱える課題や解決策を発表し、２名の最優秀賞が選ばれた。鳥取県からは、「体制変更と『コーチングシステム』の構築～人材を『人財』にするために」と題した、ＪＡ鳥取西部の山根央二さんが最優秀賞に選ばれ、２月に東京で開かれる全国研究発表会に出場する。

２．加工・業務用野菜の需要ニーズへの挑戦（ＪＡ全農とっとり）

食の簡便化・外部化を背景に加工・業務用需要が増加する中、冷凍ブロッコリーの輸入量も年々増加している。国内生産拡大に向けて輸入品の国産転換を図るべく、鳥取県においても県主要品目であるブロッコリーの冷凍加工の取り組みを進めている。

県本部では、生産から加工まで一貫体制をもつ（有）ワールドファームをパートナー企業とし、平成３０年度より取り組みを開始、今年度も１１月上旬より収穫作業を行っている。



【（有）ワールドファームとの連携による加工・業務用野菜取組実績・計画】

	H30 年度実績	R 元年度見込	R2 年度計画
数量（トン）	8.5 トン	26.0 トン	150.0 トン

３．ＪＡ直売所キャラバン開催（ＪＡ鳥取信連）

令和元年１２月７日（土）、『ＪＡ直売所キャラバン』がＪＡグループ鳥取 地場産プラザ「わったいな」にて開催された。

このイベントはＪＡバンクとＮＨＫが連携し、平成２８年度から全都道府県を対象に実施しているイベントであり、本県は３８会場目の開催となった。

当日クッキングステージでは、ＮＨＫ「きょうの料理」をはじめ、多くの料理番組で活躍されている料理研究家きじまりゅうた氏を招き、旬の大山ブロッコリーなどを使用したレシピなどの調理を実演いただき、参加者にその試食を提供した。参加者は午前と午後の計２回のステージにてそれぞれ約１００名が集まった。



クッキングステージ後のスペシャルトークステージでは、ＪＡ鳥取西部ブロッコリー部会の生産者含む４名による対談が行われた。話題は生産者の作付面積や営農の実態などを中心に進み、参加者は日常当たり前に購入する農産物が消費者に届くまでの生産者の苦労や努力を耳にし、改めて食と農の大切さを感じている様子だった。

4. 鳥取県警察への交通安全資材の寄贈について（J A 共済連鳥取）

J A 共済では、事業活動の積極的な取り組みを通じて、豊かで安心して暮らすことのできる地域社会づくりに貢献している。その一環として、令和元年度交通事故対策事業費を活用した交通事故対策事業実施計画において、交通事故未然防止の一助となるべく、鳥取県警察へ交通安全資材の寄贈を行った。

本事業実施計画の下で鳥取県警察へ、平成 29 年度に認知症対策機材、平成 30 年度に反射リストバンドの交通安全資材の寄贈を行っている。今年度は、「反射エコバッグ」3,000 個を寄贈した。J A 共済連鳥取の交通安全資材の寄贈は、警察が交通事故防止活動の取り組みの一つに「夕暮れ時と夜間の交通事故防止」を掲げ反射材用品の使用を呼び掛けていることに呼応したものであり、今後も警察が行う交通安全教育、各種広報や運動などで活用されること共済事業の優れた価値を P R できることを期待するもの。

県警は、「お年寄りから子どもまで使用できる反射エコバッグを、交通事故防止に向けた様々な取り組みの中で有効に活用したい。」「イベント等で配布したところ、地域住民からは、『かわいいバッグです。』と評判が良いです。」と話した。

J A 共済連鳥取は、引き続き警察との協力を密にして交通事故未然防止に取り組む。



◆「反射エコバッグ」

※黒色プリント部分はすべて反射する。